

■ 次の空欄を文章中の語句で補おう。

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひ給ひける中に、
いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて㊦「
「ありけり。

・はじめより我はと思ひあがり給へる御方々、
㊧「
「におとしめそねみ給ふ。
・同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして㊨「
「。

恨みを負ふ積もりにやありけむ、いと㊩「
「なりゆき、
もの心細げに里がちなるを、

〈帝は〉いよいよ飽かずあはれるものに
思ほして、㊪「
「をも
え憚らせ給はず、世の例にもなりぬべき
御もてなしなり。

〈更衣は〉はかばかしき
後見しなければ、事ある時は、
なほ㊫「
「なく
心細げなり。

世になく㊬「
「玉の男御子さへ生まれ給ひぬ。

一の皇子
右大臣の女御の御腹にて、寄せ重く、
疑ひなきまうけの君と、世にもてかしづき
聞こゆれど、この御にほひには
並び給ふべくも㊭「
「ければ、

〈帝は〉この君をば、
㊮「
「に思ほし
かしづき給ふこと限りなし。

この皇子生まれ給ひてのちは、〈帝は更衣を〉いと㊯「
「思ほしおきてたれば、

坊にも、ようせずは、この皇子の居給ふべきなめりと、
㊰「
「は思し疑へり。

おとしめ㊱「
「を求め給ふ人は多く、
わが身はか弱く㊲「
「ありさま

〈更衣は〉なかなかなる
もの思ひをぞし給ふ。

御局は㊳「
「なり。

■ 次の空欄を文章中の語句で補おう。

